

平成 18 年 6 月 9 日

サービスエリアで「A E D」を運用開始 ～ 高速道路関連社会貢献事業として全 S A に展開 ～

中日本高速道路株式会社（社長・高橋^{たかはし}文雄）は、「高速道路関連社会貢献協議会」の支援を得て、突然停止した心臓に電気ショックを与えることで正常な状態に戻す医療機器、「A E D（自動体外式除細動器）」を、6 月中に管内すべてのサービスエリア（S A）に設置します。

突然心停止が起こる原因の多くは、心臓が細かく震える心室細動だとされ、心臓が血液を送るポンプとしての役割が果たせず、発症から 1 分経つごとに 7～10% ずつ救命率が下がると言われています。心拍を正常に戻すのは、できるだけ早期に電気ショックを与えることが、最も効果的とされています。このような背景で、A E D は、2004 年 7 月から医師や救急救命士だけではなく、一般の方々も使用できるようになりました。

A E D は、誰にでも使える簡単な機械（別紙 1）で、スイッチを入れ、電極パッドを傷病者の胸につければ、電気ショックが必要かどうか自動診断し、音声ガイダンスにより操作が指示されます。さらに、より確実に救命効果を上げるため、各 S A で機器の使用法に関する説明会と C P R（心肺蘇生法）の講習会を実施し、当社社員はもちろん、サービスエリアの従業員が救命救急に関する知識の向上を図って参ります。主な S A の A E D 設置日程、説明会、講習会の予定は別紙 2 のとおりです。

お客様に「安全・安心」な高速道路空間を提供する一環として、当社はすべての S A に A E D を配置することにしました。1 人でも多くの命を救うことができれば、と願っています。

高速道路関連社会貢献協議会は、お客様が高速道路をより快適にご利用いただけるよう、道路の安全性とサービスの向上を図る事業の実施機関として設立されました。メンバーは当社など旧日本道路公団が分割してできた 3 会社と高速道路交流推進財団、そして、事業の趣旨にご賛同いただいた、日ごろ高速道路の維持管理に従事していただいている会社 73 社です。

以 上

救命処置のABCD

目の前で倒れている人を発見！
あなたならどうしますか？

救命処置のABCDを知っていれば、大切な命を救うことができるかもしれません。

倒れている人を発見！！



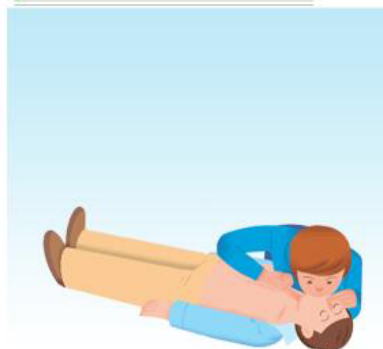
まず意識を確認しましょう。意識がなければ119番に通報し、AEDを用意します。救命処置のABCDを行いましょう。

A (Airway)－気道確保



気道を確保し、呼吸を確認します。

B (Breathing)－人工呼吸



通常の呼吸がない場合は息を2回吹き込みます。

C (Circulation)－心臓マッサージ



呼吸や咳、体の動きが確認できない場合は心臓マッサージを15回行います。

D (Defibrillation)－AEDによる除細動



D (Defibrillation)－AEDによる除細動

AEDによる自動診断で電気ショックが必要と判断されると、音声ガイダンスで通電ボタンを押す指示が出ます。



D (Defibrillation)－AEDによる除細動



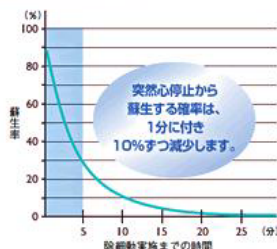
AEDが自動診断します。

通電後の状態をAEDが自動診断します。さらに電気ショックが必要な場合は音声ガイダンスによる指示があります。



どうして除細動なの？

心停止(心室細動、一部の心室頻拍)の救命率を見た場合、心停止後の除細動が1分遅れるごとに7%～10%も救命率が減少すると言われています。より効果的に除細動を行うためには5分以内に除細動を行うことが必要だといわれています。もし近くにAED(自動体外式除細動器)があり、少しでも早く除細動(処置・行為)ができれば救命の可能性は飛躍的に上がるでしょう。



【グラフ】
時間がかかればかかるほど救命率は減少



主なＳＡでのＡＥＤ設置予定

ＳＡ	設置	講習会	担当支社
海老名ＳＡ	６月１４日頃	６月２０日頃	横浜支社
談合坂ＳＡ	６月２６日頃	６月２８日頃	八王子支社
多賀ＳＡ	６月１３日頃	６月１４日頃	中部地区
有磯海ＳＡ	６月１６日頃	６月１２日頃	金沢支社

中日本高速道路管内の全ＳＡに、計４８基のＡＥＤを設置します。